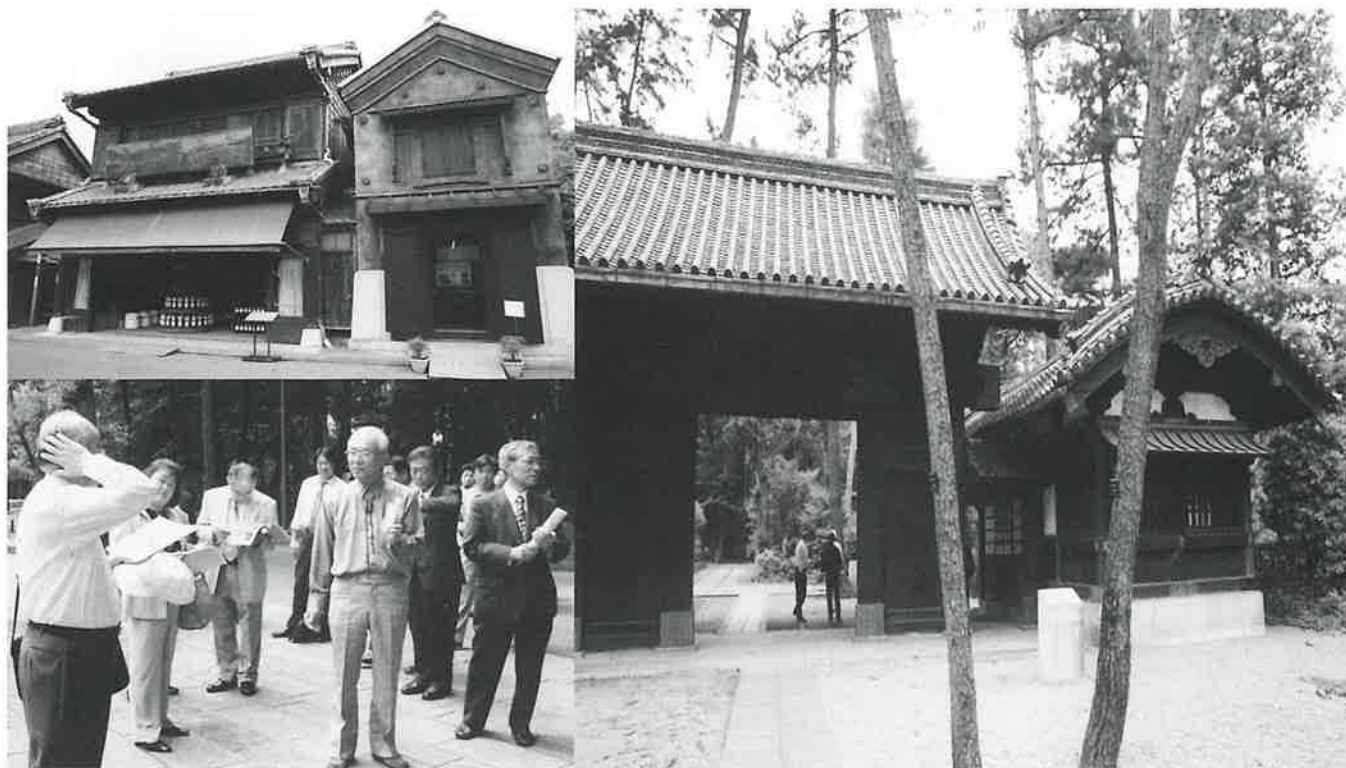


No.46

2005 秋季号

aaca



「江戸東京たてももの園」見学会

CONTENTS

平成17年度 通常総会

会長 専務理事 ご挨拶 2

常務理事 ご挨拶 3

平成17・18年度 役員・理事・監事名簿 4

組織 体制 5

第17回 2005 aaca横浜景観シンポジウム 6

情報文化委員会だより 7

トピックス 8

社 団 法 人

日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会

平成17年 通常総会

会長・専務理事 ご挨拶

aaca

日本建築美術工芸協会

2005秋-2

aacaの多様な構成メンバーの力を結集しよう

会長 中島昌信

昭和63年11月28日に文化庁所管の社団法人日本建築美術工芸協会として設立許可を得ました。

私は平成元年度理事に、同7年度より専務理事 又今期思ってもいなかった会長の要職にご推挙いただき緊張の毎日です。協会設立以来の16年間の活動を振り返りますと、会員の方々の熱い情熱と意欲的な活動を思い起こし大いに刺激を感じております。

会報の「創刊にあたって」芦原義信会長のお言葉の冒頭に、「この度日本建築美術工芸協会の会報が発刊されます、この協会は、建築家・美術家・工芸家が協力し、わが国が世界の文化大国となるため頑張ろう。云々。」ということから始まったものです。なんと今のわが国の現状にとって この理念こそ継承されるべきだと思います。

又 aacaシンポジウムは「第1回 '89京都シンポジウム」にはじまり 昨年「第16回 明治安田生命

ビル街区再開発と都市環境」迄、実に内容の充実したものでした。

AACA賞、芦原義信賞、160回を数えるaacaトークをはじめ、会員交流講演会、建築と文化を語るタベ等多くの事業が順調に会員の献身的努力で進められております。

然し 新しい時代を意識する時 協会の組織は決定の意志と責任を合わせもったそれぞれの委員会が有機的に繋がる構成でないと対応する為の行動がとれないと思います。この度 専務理事、両常務理事を中心とした企画調整会議に期待すると共に最高機関である理事会が本格的に機能することが 最大の懸案事項と自覚しております。

既に各委員会より、抱負をはじめ具体的な行動計画の提案がなされつつあります。私は広く協会の存在を宣伝し、会員相互の信頼関係を蜜にし親睦を盛んにし、魅力ある協会となることが結果として会員の増強に繋がることと思います。

会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。



中島会長



小林専務理事



日高常務理事



吉村常務理事

aacaへの期待と路線

専務理事 小林治人

21世紀に入り、人々は有り余るモノに囲まれながら、日々の生きがい、心の満足・幸福感など、己にとってかけがえのないもの、己の納得のいく人生を今まで以上に求めるようになって来たのではないのでしょうか。

独創性に富んだ最高のこだわりのある人生、量より質の追求現象とも言える社会、このことは文化化現象と受け止めることができるのではないのでしょうか。

この様な時、会員の皆様の強いご推挙で、非力を省みず専務理事の要職をお引き受けすることとなりました。

aacaを力強く、明るく、社会から期待される姿とするため非力ながら努力を惜しまない考えですが、その責務を考えた時、身が引き締まる思いです。

私は従来からのaaca懸案事項に、新しい時代性のサイクルを踏まえたテーマを加え、中島体制の下 テーマ別委員会委員長の所掌事項を会員全員の理解・協力と所管の文部科学省をはじめ関連諸官庁・組織団体の

指導協力によって実施することが要諦と考えています。

今の段階で私は、aacaに次の期待をしています。

- 1 aacaを構成する多様な職能人の身分安定・向上追求路線
文化創出にかかわる専門家の意義・役割・領域の明確化と融合・協働化の促進
多様な職能市場開発の可能性追求と拡大・促進
- 2 aaca会員による多彩な作品・製品追求路線
会員の作品・製品の技術向上と充実支援と社会性付加促進、先端技術・機材の応用と環境・景観技術の開発支援
- 3 文化を軸とした社会資本整備政策提言路線
- 4 作家・文化創出企業家などの専門教育と育成、参加と支援路線
- 5、内外の関連団体との文化交流促進と国際市場開発路線

これら五つの路線を実施・実現するためには、財政強化が急務であり、そのためには収益事業、会員倍增など当面の課題と捉えています。

「バランス創造システム」と 「人の心の科学」の世紀と aaca。

常務理事（調査研究担当） 日高 肇也

20世紀は科学技術のめざましい進歩と発展の世紀であると同時に、痛ましい戦争の世紀であったと言える。

先端科学技術の進展は生命の誕生をもうんぬんせんばかりとなった。この人類が勝ち取った科学技術は20世紀における人類の偉大なる遺産である。しかしその裏側には人類を含め、地球に存在するものの多大なる犠牲をともなった。その事実は地球環境問題と云うかたちで21世紀に持ち越されることとなった。

科学技術の進展と云う一方向にのみ振り子はふられ、制御力となるべき人の心の科学の進展に振り子はもどらず、バランスを欠いた20世紀と言ったら過言であろうか。物理・化学的手法やモルモットによる実験科学的アプローチによる人間科学の進展はみせてはいるが、人の心の科学からは離れ、結果として痛ましい事件の発生を呼び起こすこととなった。

（地下鉄サリン事件など）良きにつけ悪きにつけ行動の制御力は最終的には人の心にある。

哲学者・梅原猛は言う。「私は現在の日本人の道徳的退廃を深く憂慮するものである。日本人はもう一度、真剣に道徳について考えなければならないと思うが、

それには日本人の心情を千年以上の間培ってきた

「新生aacaスタートにあたり」 画一化の波

常務理事（事業担当） 吉村 忠雄

日本の都市文化は金太郎飴といわれて久しい。駅ビルがあり駅前にはコンビニ、ハンバーガー屋が建ち並ぶ。

駅ビルの店舗は多くがチェーン店で ショーウィンドに置かれている商品は全国津々浦々同じ物である。

しかし最近はこの金太郎飴批判を耳にしなくなって来た。言い飽きたのか 又その便利さ故に国民が満足した結果なのかは判らない。

6月、パリに遊びに行ってきた。パリ市内は東京と変わらないが車で1～2時間足を伸ばすと田園地帯が広がる。

駅の周りにはホテルとレストランにすぎない。

コンビニもハンバーガー屋もない。夜中に小腹がすいたと云って コンビニでカップラーメンを買う様なわけにはいかない。多くの日本人はこの時不便だと感じるのではないか。 実はかく云う私もそう感じた次第。

この便利と云うサービスは恐ろしい麻薬の傾向がある。

サービスを提供する側は 全国同じサービスを目指し類型化、画一化し地域性等は無視する。その結果何処に行ってもコンビニには同じ商品が並びハンバーガーの味は全く同じとなる。此の他にも同類項は幾つもある。日本中同じ様な役所と文化会館が建ち 家屋は 市街地も田舎も全く同じ造りである。2時間も飛行機に揺られ着いた所は 小東京と云う馬鹿馬鹿しい事が日本では一般的になった。

仏教の道徳を想起すべきであろう。」（本年6月21日朝日新聞より）

バランス創造システムという言葉は私の造語である。

工学部で教鞭をとっている者の一人として21世紀に求められる人類の課題は、既存の専門分化された分野を横断し、20世紀までの科学技術を利用・応用し、全存在のバランスを考慮したより良い地球環境を創造するシステム（バランス創造工学）の構築にあると私は思っている。と同時に制御力の源点となる人の心の科学の進展にあると信じている。

前置きが長くなったが、去る5月17日のaaca総会で新体制が発足し、社会経験の乏しい私が常務理事と云う責任ある立場をお引き受けすることとなった。

改めて日本建築美術工芸協会（aaca）の21世紀の役割と方向性を考えたとき、「バランス創造システム」と「人の心の科学」に寄与し得るエネルギー集団であってほしいと願うのは当然である。それは、建築と建築環境・美術と環境芸術・情報や文化事業など多岐に渡る人々が分野を越えて横断的に交流と親睦を重ね、ともに支援し合う必要がある。そして共有するテーマである「より良い環境・景観の創出と保全」の実現に向けて、美意識を中心にすえたバランス感覚を持ったエネルギー集団の運動が21世紀のaacaのあるべき姿であると期待している。

これは 都市構成や建物だけでなく 日常生活 全てが類型化、画一化の波の中にとっぴりつかっている。

朝、テレビチャンネルを廻せば どの番組も 同じ様な「ワイドショー」で 出演者が違うだけである。

フランスではワイドショーの番組は一局だけ、ドラマ、漫画、料理、体操など全く趣の違う番組構成となっている。加えて日本では教育から政治迄も画一化傾向にある。

型にはまらない子供はいじめに合い、主張を通す政治家は派閥の除け者となる。 考えさせられる風潮と思う。

新生aacaが発足して3ヶ月半となるが 10部門の委員会が精力的に活動していると感じている。

言うまでもないが建築と美術、工芸と云うややもすると反目しそうな職種を コラボレートさせようとする故芦原義信先生の基本理念が生かされていると思っている。

各委員会が建築、美術、工芸のエキスパートで構成され一段と高い文化レベルを目指そうとする事はaacaでしか出来ない事業である。

私の担当事業は下記4部門で

展示委員会 文化事業委員会

新規事業委員会 会員委員会

大きな目標としては 建築・美術・工芸の3部門の交流と新規会員の拡大、事業の推進であり中でも 各種講演会、展示会の継続、個人作者への場所提供、学生への門戸開放、aaca大阪の立上げと思っている。

力不足ではあるが 画一化しない楽しい協会運営が出来ればと希望しております。

平成17年 通常総会

平成17・18年度 理事・監事

aaca

日本建築美術工芸協会

2005秋-4

会長

中島昌信
建築家



大野 勝 表彰委員会・委員
(株)佐藤総合計画常務



副会長

加藤貞雄 総務担当
茨城県近代美術館館長



岡本 賢 表彰委員会・委員
(株)久米設計社長



澄川喜一 事業担当
彫刻家



川村純一
アーキテクトファイブ代表



山田 満 調査研究担当
(株)環境デザイン研究所会長



片山幸則 文化事業委員会・委員長
中央建材工業(株)常任顧問



専務理事

小林治人 企画調整会議担当
(株)東京ランドスケープ研究所会長



可児才介 表彰委員会・委員
大成建設(株)常務設計本部長



坂上直哉 情報文化委員会・委員長
作家



常務理事

日高單也 調査研究担当
日本大学教授



佐野吉彦 会員委員会・委員長
(株)安井建築設計事務所社長



吉村忠雄 事業担当
元東陶機器(株)常務



七字祐介 調査研究委員会・委員長
(株)タイセイ総合研究所社長



立石博巳 文化事業委員会・委員
(株)ヒガノ相談役



理事

芦原太郎 国際交流委員会・委員長
芦原太郎建築事務所代表



立野純三 総務委員会・委員
(株)ユニオン社長



岩井光男 表彰委員会・委員
(株)三菱地所設計副社長



深澤重幸 新規事業委員会・委員長
(株)コトブキ会長



飯野毅一 表彰委員会・委員長
美術コンサルタント



村松映一
(株)竹中工務店副社長



石田眞人 広報委員会・委員長
京急建設(株)取締役



監事

清水重男
建築家



宇津野和俊 総務委員会・委員長
菊川工業(株)社長



矢橋信雄
矢橋大理石(株)



小倉善明
(株)日建設 顧問



(あいうえお順)

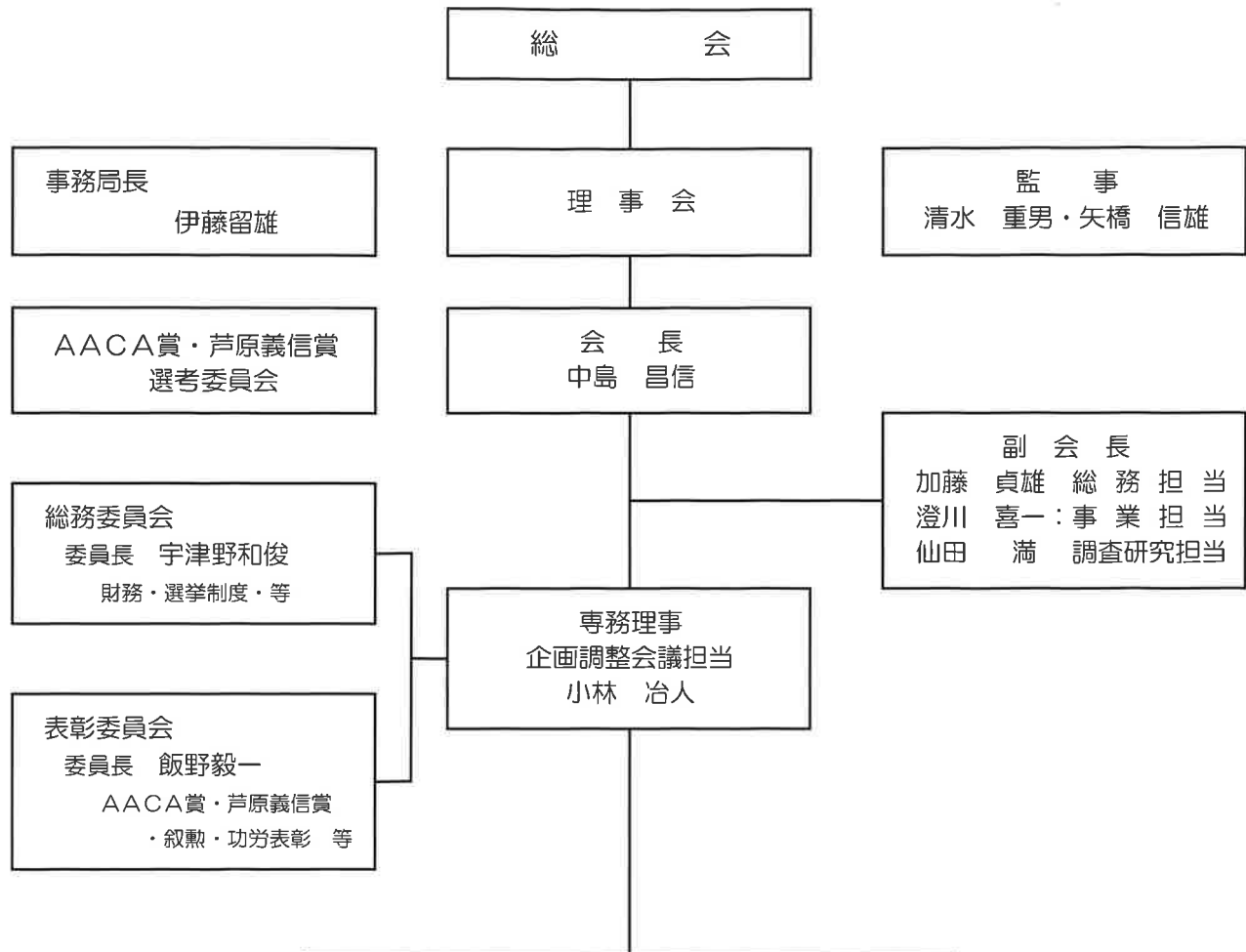
平成17年 通常総会

aaca 組織・体制



日本建築美術工芸協会

2005秋-5



常務理事：事業担当
吉村 忠雄

常務理事：調査研究担当
日高 單也

会員委員会
委員長 佐野吉彦
会員交流事業・支部・等

新規事業委員会
委員長 深澤重幸
各種新規事業・等

文化事業委員会
委員長 片山幸則
シンポジウム・トーク・CPD・等

展覧会委員会
委員長 厩屋 正
展覧会・等

国際交流委員会
委員長 芦原太郎
留学生派遣・受入・国際会議・等

調査研究委員会
委員長 七字祐介
各種調査・受託研究・研修・等

情報文化委員会
委員長 坂上直哉
ホームページ・情報・等

広報委員会
委員長 石田真人
会報・出版・等

第17回 2005

横浜 a a c a 景観シンポジウム



日本建築美術工芸協会

2005秋-6

「第17回 2005 横浜aaca景観シンポジウム」 が開かれます。

開催日 2005年10月28日 (金曜日)
 時間 午後1時30分より 同 4時
 会場 関内新井ホール 神奈川県横浜市中区尾上町(横浜市役所北側)
 主催 日本建築美術工芸協会
 後援 文化庁、社団法人日本建築学会、社団法人日本建築家協会、社団法人日本建築士会連合会

テーマ 「横浜のデザイン戦略」 aaca副会長 仙田 満

横浜市は1950年代末から 都市デザインという分野で、日本では先導的なさまざまな施策、政策を行ってきました。しかし一方、巨大な都市人口の集中により、横浜の斜面緑地が失われ都市景観は横浜らしさの保持が難しくなっています。横浜アートビエンナーレや新客船ターミナル等、新しい建築的、環境的な試みがなされる一方、歴史的な建物もその存在が希薄になっているところもあります。
 多様な側面を持つ 大都市のデザイン戦略はどうあるべきかを議論したいと思います。

パネリスト

香山 壽夫氏
 建築家
 横浜のプロジェクトを通じて、横浜の歴史と景観形成
 略歴 '60 東京大学工学部建築学科卒、'65 ペンシルバニア大学美術学部修士課程修了、
 '68 九州芸術工科大学助教授、'71 東京大学助教授、'86 同教授・工学博士、
 '97 東京大学名誉教授・明治大学教授、'99 ペンシルバニア大学客員教授、
 現放送大学教授、香山壽夫建築研究所代表、
 作品 相模女子大学、彩の国さいたま芸術劇場、聖アンデレ教会、関川歴史資料館、
 聖籠中学校、可児市文化創造センター、横浜税関、聖学院大学礼拝堂、ほか

菅 孝能氏
 建築家
 都市計画家
 まちづくりの立場からの景観形成
 略歴 '65 東京大学工学部建築学科卒、'65 (株)大高建築設計事務所勤務、
 '68 (株)和設計事務所勤務、'74 同取締役 '83 (株)山手総合計画研究所設立、
 横浜プランナーズネットワーク代表幹事、横浜まちづくり倶楽部理事、
 作品 荻田町立図書館、伊万里市民図書館、日本大通、横浜ドッグヤードガーデン、
 金沢シーサイドライン保全地区計画、港北NTタウンセンター地区計画 ほか

高橋 晶子氏
 建築家
 新しい建築形態と景観形成
 略歴 '80 京都大学工学部建築学科卒、'86 東京工業大学博士課程中退、
 '86 篠原一男アトリエ勤務、'88 高橋寛とワークステーション設立、
 '04 武蔵野美術大学教授、
 作品 高知県立坂本龍馬記念館、岐阜県営住宅ハイタウン北方、佐川町立桜座、
 野毛山動物園ふれあいコーナー、横浜トリエンナーレ2005会場計画、ほか

国吉 直行氏
 都市デザイナー
 行政の立場より横浜の都市デザイン・景観形成
 略歴 早稲田大学理工学部建築学科卒、同 修士課程修了、
 '71 横浜市役所入庁、以来35年間都市デザイン担当、
 '01 都市計画局都市デザイン室室長、
 '04~都市整備局上席調査役エグゼクティブアーバンデザイナー、

樋口正一郎氏
 美術家
 都市景観研究家
 環境アーティストとしてアートワークと景観形成
 略歴 東京芸術大学 彫刻科卒、東京大学建築学科研究生、
 環境造形の研究のほか 彫刻、造形作家、写真家、評論家として活躍。
 作品 都営地下鉄大江戸線清澄白川駅 壁面アート、ほか

コメンテーター
 田村 明氏
 都市計画家
 略歴 '50 東京大学建築学科卒、'53 同法律学科卒、'63 環境開発センター計画部長、
 '68 横浜市企画調整部長、局長、技監、'81 法政大学教授、'97 同名誉教授、
 著書 「都市ヨコハマをつくる」(中央公論社)、「まちづくりの発想」(岩波書店)、
 「まちづくりの実践」(岩波書店)、ほか

コーディネーター
 仙田 満氏
 環境建築家
 略歴 '64 東京工業大学建築学科卒、菊竹請訓建築設計事務所勤務、
 '68 環境デザイン研究所 設立、'88 名古屋工業大学社会開発工学科教授、
 '92 東京工業大学建築学科教授、'01~'03 日本建築学会会長、
 '04~aaca副会長、'05~東京工業大学名誉教授、環境デザイン研究所会長
 作品 東京辰巳国際水泳場、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、兵庫県立但馬ドーム、
 海南市わんぱく公園、愛知県児童総合センター、北九州海峡ドラマシップ、ほか

「ホームページを通して情報交換の拡充に努めます、より会員相互の連携を高めましょう！」

URL <http://www.aacajp.com>

情報文化委員長 坂上直哉

■aacaにおける「情報文化委員会」の役割

aacaが時代の文化に寄与するため、インターネットの利用によって、会員の居場所、年齢、性別、職業を超えた会員相互の交流が活性化するように努めます。

- 1、会員・非会員へ様々な情報発信をし、公共の文化、風景、風土に資することを目指します。
- 2、日常的にも、時と場所を越えて会員相互が自由に情報交換が出来る交流の場を創ることを目指します。
- 3、今日まで、多くの文化創造は、人と人が実際あいまみえることによってなされてきました。

しかし、近い将来には、会員である多様な職能人が、その時代にあった情報機器やソフトを通じて、時と場所を越えて、ひとつのプロジェクト（文化）を創り上げていくことも考えられます。

■今後の計画

段階	目指す活動	研究課題
ステップⅠ (05年度)	会員に向けての情報発信・交換 →会員は居場所に関わらず会の動きをタイムリーに把握可能に (HPを通して会員以外の人にも情報は提供)	aacaとしての情報開発 について
ステップⅡ (06年度)	会の外に向けた発信方法、内容を検討、実施	情報がもたらす変化について
ステップⅢ (07年度)	会員・非会員双方向の情報交換による文化創造 IT(PC・データ通信技術環境)からTF(創造的情報技術環境)へ	情報開発並び構築システムが もたらす成果について

■委員会メンバー…

(委員長) 坂上直哉、

(委員) 石井博美、長谷川亨、露口典子、村井久美、武田有佐、荒井里織、田中遵、鮫島貴子、高城和文、

『会員紹介ページ』掲載募集のご案内

“会員～会員並びに会員～非会員への情報発信起点”と位置付け、その活性化と拡充を図ることに致しました。『会員紹介ページ』に各位活動や作品、展示会等の案内を掲載、各自ホームページへのリンクなどを通じ、双方向性のある情報交換の場の創出を目指しています。

掲載要綱

URL <http://www.aacajp.com>

E-mail info@aacajp.com

掲載対象	正会員 法人会員
掲載内容	会員各位の活動、作品の紹介と展示会の案内などを 写真4点を含め 印刷サイズA4判1ページにコンパクトにご紹介します。
掲載場所	協会ホームページ→会員紹介→会員名→会員紹介ページへ
掲載費用	初年度 作成・維持管理費 5,000円
	次年度以降 維持管理費 2,000円
	掲載内容更新 更新変更費 1回につき 1,000円
	ご入金方法 郵便振込み用紙に 会員紹介ページに作成・維持管理費又は維持費を明記のうえ 郵便振込口座 00110-2-365085 (社) 日本建築美術工芸協会 にお振込みください。ご入金確認後 エントリーシートに従い作成致します。 *年度：申込エントリー当年を初年度とし、毎年4月1日以降次年度扱いと致します。

申込方法は同封のエントリーシート 又は協会ホームページ→会員紹介ページに掲載のシートに事項を御記入のうえ 事務局まで FAX 又は Eメール にてご送付願います。

『会員紹介ページ』は多くの会員の参加が必要です、多数の会員の申し込みをお待ちしています。

新入会員 御紹介 (2004年11月~2005年7月 入会)

正会員

海老沼一夫 (勤) 〒102-8678 千代田区一番町31	TEL03-3265-4611 (株)銭高組
北嶋祥浩 (勤) 〒522-0002 彦根市松原町1247-1-101	TEL0749-26-9738 アビエルタ建築・都市
齋藤 栄 (勤) 〒164-0014 中野区南台3-22-1-512	TEL03-3383-1784 エスアイ建築事務所
金井猛次 (勤) 〒220-0023 横浜市西区平沼1-30-7	TEL045-321-0929 三共建設(株)
馬場邦明 (勤) 〒145-0066 大田区南雪谷2-17-8	TEL03-3727-5751 サンユ一建設(株)
工藤康博 (勤) 〒100-0005 千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	TEL03-3287-5808 (株)三菱地所設計
伴 紀子 (勤) 〒171-0022 豊島区南池袋2-47-4	TEL03-3987-1811 (株)池袋松屋
烏瀧浩司 (勤) 〒144-0052 大田区蒲田4-22-8	TEL03-5703-1441 テック大洋工業(株)
寄神宗美 (自) 〒615-8253 京都市西京区御陵北山町26	TEL075-392-1053
関 玄達 (自) 〒157-0066 世田谷区成城1-22-10-201	TEL03-5727-2164
今村和雄 (勤) 〒260-0017 千葉市中央区要町15-2	TEL043-202-5541 (株)アートマネージメント システム-アムスー
澤井あい (勤) 〒541-0041 大阪市中央区北浜3-2-24北沢ビル	TEL06-6201-0221 アート・遊
中小路泰久 (勤) 〒617-0006 京都市向日市上植野町下川原26	TEL075-921-2928 (有)ソフト設計企画社

法人会員

美和ロック(株)	代表取締役社長	和氣英雄	商品開発部デザイン課	長江博人
〒105-0014	港区芝3-1-12			TEL03-5452-5551
みはし(株)	代表取締役	三橋幸生	営業部 部長	大下清和
〒351-0101	和光市白子3-26-43			TEL048-464-0384
東京ガス(株)	都市エネルギー事業部執行役員	大谷 勉	都市I礼ギ-マネジ-メント部	大倉伸二
〒163-1059	新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワーS棟27F			TEL03-5322-7547
(株)NTTファシリティーズ	取締役副社長	沖田章喜	建築事業本部	石坂泰治
〒108-0023	港区芝浦3-4-1 グランパークタワー26F			TEL03-5444-5639
横浜ビル建材(株)	代表取締役	前川睦彦	営業推進開発部	鈴木欣吾
〒231-0011	横浜市中区太田町4-48川島ビル			TEL045-212-0992
(株)ナカノフード建設	代表取締役社長	瀧口光夫	お客様サービス部部長	安藤 泰
〒102-0073	千代田区九段北4-2-28			TEL03-3265-4661
宇部建設資材販売	取締役社長	河内正雄		長島茂利
〒141-0032	品川区大崎3-5-2			TEL03-5487-3731
(株)ナカサアンドパートナーズ	代表取締役	伊佐 猛	同左	
〒153-0051	目黒区上目黒2-18-4			TEL03-5722-7757

会員投稿記事 募集中

会員の皆様の

作品紹介、活動報告、
 展覧会、個展等のご案内
 企業の広告、出品展等のご案内
 を 会報に掲載いたします。
 詳しくは事務局にご相談ください。

会報について
 会報へのご意見 ご希望を
 お寄せください。(広報委員会)

発行

社団法人 日本建築美術工芸協会
 〒108-0014
 東京都港区芝5-26-20 建築会館6階
 Tel 03-3457-7998
 Fax 03-3457-1598
 Url http://www.aacajp.com
 E-mail info@aacajp.com

編集

広報委員会
 石田 真人 垣内 泰三 北村 孝昭
 瀬川 秀之 竹生田 正 中村 弘子
 長谷川 亨 本田 宣之 山崎 輝子
 事務局
 伊藤 留雄